

ジェスネリアードと共に

奥藤 敏二郎 氏

賞をいただきありがとうございます。ジェスネリアード (Gesneriad) について、少しでも認識を深めていただければと思います。

Gesneriad は英語でイワタバコ科植物のことですが、日本ではあまり使われません。日本では、イワタバコ科の植物をゲスネリア (*Gesneria*) と言っていますが、ゲスネリアは、イワタバコ科内の1属にすぎないので、ジェスネリアードにこだわって使っています。

勤めていた兵庫県フラワーセンターがジェスネリアードの展示室を開くにあたり担当になったことが、ジェスネリアードとの付き合いの始まりです。その頃は、ジェスネリアードが日本には殆んど入っていなかったので、集めるのが大変でした。

担当やフラワーセンターを辞めてからも、イワタバコ科の植物と付き合っています。

イワタバコ科は、150属 3000種あまりあるといわれている大きな科です。分布の中心は、メキシコからブラジル、中国から熱帯アジア、アフリカです。

ジェスネリアードがどのような花か、画像を見ながらご紹介しましょう。

アフリカ原産

アフリカには、セントポーリアとストレプトカーパスの2属しかありませんが、どちらも園芸的には重要な属となっています。私が、一番力を入れているのがストレプトカーパスです。

ストレプトカーパス (*Streptocarpus*) の自生地は、アフリカ大陸で、赤道付近にストレプトカーペラ (*Streptocarpella* 亜属) と呼ばれる茎が伸びる熱帯性の有茎種があり、南東部には、温帯性のストレプトカーパス亜属 (無茎種) があります。後者は岩壁の途中の割れ目などにコケや他の草と共に生育しています。

ストレプトカーペラ亜属はハンギング仕立ての鉢物として最近よく見かけます。日本では交配種の S. 'White'、S. 'Concord Blue' などが入手できます。

ストレプトカーパス亜属は多年生で長い葉が叢生するものですが、一葉種は、双葉のうちの一枚が大きくなり、花が咲き終わると種子をつけて枯れます。この中の赤い花を咲かせる *S. dunnii* がストレプトカーパスの赤花の作出に関わっています。

私が扱いだしたころ、ストレプトカーパス亜属の品種はあまり多くありませんでした。その頃出回ってい

たものは、葉が長く伸びてしまいだらしなかった。原種の中に葉が小さいものがあつたので交配を続けて小型の新しい品種を作るようになりました。いくつか交配をしているうちに小さいものができ、'サクラ' 'アスカヒメ' など、2~2.5号の鉢でバランスよく育つものができましたが、あまり人気は出ませんでした。

Skentaniensis の細く肉厚の葉の性質を受け継いだ、3~4号鉢でバランスが取れるものも出来ました。しかし、やはり人気のあるのは色が豊富で豪華で、葉も花も大きい大型品種です。ストレプトカーパスの交配は簡単で、交配すると様々なものができます。花色はほぼ揃っていますが、黄色が無いので交配を続けています。中心に黄色が入るものがいくつかできましたが、花の上部には殆んど入りません。イギリスの業者の品種の中に黄色になっているものはあるようですが。

新大陸原産

鱗茎 (つくしの頭のような球根) ができるタイプ

アキメネス (*Achimenes*) は、鉢物にすると格好がとりにくいですが、球根を沢山詰め込んでハンギングにするとよいでしょう。

原種にはいろいろな色があります。

ユーコードニア (*Eucodonia*) は、*E. andrieuxii* と *E. verticillata* の2種しかありません。コンパクトで葉に白い毛が生えて可愛い。

グロキシニア (*Gloxinia*) の原種は、茎が直立します。

シーマニア (*Seemannia*) *S. sylvatica* が昔から市場に出ている、息の長い商品として残っています。作りやすいのが取り柄です。*Seemannia* から *Gloxinia* へと属がうつり、そしてまた *Seemannia* にもどりしました。

コーレリア (*Kohleria*) は、花の正面に濃い点々が入り、どきつく派手な花です。銅葉の種類があり、これを交配した銅葉品種もあります。栽培が難しいとも言われますが、球根を春に植えると夏前には咲かせることができます。

スミシアンサ (*Smithiantha*) は、背丈が高くなり、花のバラエティもあり美しい種類です。交配種が花屋に出回っていましたが、12月前後に花が咲き、高温が必要なので、購入された方が花を維持するのが難しいようで最近あまり見ません。

イワタバコ科の特徴は、属間雑種ができやすいこと、



講演をする奥藤敏二郎氏

たくさんの交配種が作られています。スマシアンサ×アキメネスや、スマシアンサ×ユーコードニアなどの交配をしたことがあります。

球根のできないタイプ

アルソビア (*Alsobia*) は昔から、長いストロンがでる *A. dianthiflora* が花屋さんに出ており、今でも時々見かけます。2種しかないのですが、最近、ストロンが出ないタイプ (*Alsobia* sp.) が数種発見されました。

コルムネア (*Columnnea*) は、オレンジ系、黄色系の花色の派手なグループで、茎が長く、葉が小さいので、花が一斉に咲くと豪華です。少し高温性で、一般の家庭での栽培には問題があります。

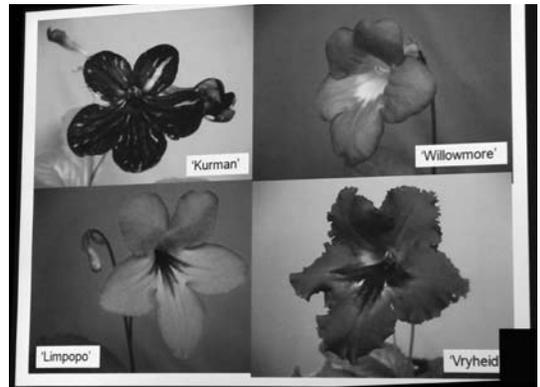
エピスシア (*Episcia*) は、以前、アルソビアと同じ属になっていましたが、ストロンの出方がちがうと別属になりました。斑入り葉などの変異が出ることもあります。これは葉が美しいのですが、高温多湿を好み作りにくいので、テラリウムでの栽培が適しています。

ネマトンサス (*Nematanthus*) は、ふぐ提灯のような花型をしています。花梗が長いものと短いものがあります。以前のヒポシルタ属はこの属に吸収されました。丈夫で作りやすい *N.gregarius* がいろいろな名 (ヒポシルタ、金魚の樹など) で売られています。

コドナンテ (*Codonanthe*) は、ネマトンサスに近い属で、白い花の種類が大多数ですが、クリーム色の花を咲かす種もあります。 *C.gracilis* が花屋さんに見られる植物としてよく出ています。花、葉と共にオレンジ色の実が可愛いですが、実をコンスタントに着ける方法がよくわかりません。アリとの共生関係が知られていますが、アリが授粉するわけではありません。

ネマトンサス×コドナンテの属間雑種は、両者の中間的な形質になることが多く、生育旺盛なものが多いです。

ゲスネリア (*Gesneria*) は、小型のものから木立性で大きくなるものがありますが、水切れに弱いので注意が要ります。



ストレプトカーパスの交配種
講演は数多くの写真とともに紹介された

塊茎の出来るタイプ

シンニンギア (*Sinningia*) は、シクラメンのような球根ができて、殆どのが冬は休眠します。多くの種類は球根が増えませんが、小球が沢山できるものも一部あります。背丈が高くなるもの、芳香のあるもの、多肉植物として扱うもの (*S. leucotricha* '断崖の女王') など、多様なタイプがあります。ミニシンニンギアと呼ばれる小型のものもあります。 *S.speciosa* の園芸種で花が大きく上を向いて咲くものがグロキシニアとして販売されていますが、本当のグロキシニア属と区別するため、「フローリスト グロキシニア」と呼ぶことがあります。

アジアの種類

エスキナンサス (*Aeschynanthus*) はアジア産の中では最も派手で、オレンジ系の花が咲くものが多くあります。

キリタ (*Chirita*) はストレプトカーパスの次に育種に力を入れている属です。

中国南部に多く自生し、石灰岩の山の斜面の割れ目や洞穴の入り口などに自生が見られます。

キリタは、耐寒力もあり、原種のままでも観賞価値の高いものが多くあります。F₁はできるのですが、次の世代の種子ができず、交配が進みません。

ペトロコスメア (*Petrocosmea*) は花より葉に人気があり、小型の葉が放射状に綺麗に整列します。キリタに比べると少し弱い。殆ど中国に自生していますが、インド、タイにも一部分布しています。

イワタバコ科の植物は、一部しか栽培されておらずポテンシャルがあると思いますが、なぜか人気が出ないのです。皆さんの力でいつか、ポピュラーになるといいなと思います。特にキリタやペトロコスメアはある程度の耐寒性があるので、お勧めの属です。

(文責：編集部)